

参考文献リスト(3-5 局地的豪雨の増加による災害発生リスク評価)

No.	著者(公表年)、文献名、学術誌名、巻(号)、ページ	概要	URL
1	Murata, Akihiko, Hidetaka Sasaki, Hiroaki Kawase, Masaya Nosaka, Toshinori Aoyagi, Mitsuo Ohizumi, Naoko Seino, Fumitake Shido, Kenshi Hibino, Koji Ishihara, Hirokazu Murai, Souichirou Yasui, Shunya Wakamatsu, Izuru Takayabu: 2017, Projection of Future Climate Change over Japan in Ensemble Simulations Using a Convection-Permitting Regional Climate Model with Urban Canopy, SOLA, Volume 13 Pages 219-223. doi:10.2151/sola.2017-040	NHRCM02を用いた気象研究所による2kmメッシュ力学的ダウンスケーリングデータの内容及び傾向について説明されている。ここでは、RCP8.5のシナリオによる国内の21世紀末の将来予測を詳細化しており、別途実施されたNHRCM05による5kmメッシュによる力学的ダウンスケーリングによる結果と比較されている。計算結果からは、特に将来的な気温及び降水量の極端現象の変化が示された。	https://www.jstage.jst.go.jp/article/sola/13/0/13_2017-040/_article/-char/ja
2	□ 名古屋市、2016: 名古屋市風水害対策実施計画	名古屋市が策定した風水害対策実施計画を解説している。名古屋市では、特に「災害対応力の向上」、「災害に強いまちづくり」、「地域防災力の向上」の3つの方針を掲げ、市民への影響を最小化するための実施計画を策定した。	http://www.city.nagoya.jp/bosaikikikanri/page/0000087661.html
3	IPCC, 2013: Climate Change 2013: The Physical Science Basis. Contribution of Working Group I to the Fifth Assessment Report of the Intergovernmental Panel on Climate Change [Stocker, T.F., D. Qin, G.-K. Plattner, M. Tignor, S.K. Allen, J. Boschung, A. Nauels, Y. Xia, V. Bex and P.M. Midgley (eds.)]. Cambridge University Press, Cambridge, United Kingdom and New York, NY, USA, 1535 pp., doi:10.1017/CBO9781107415324	IPCC(気候変動に関する政府間パネル)第1作業部会による、第5次影響評価報告書である。全球モデルによる将来的な気候変動予測結果の取りまとめが示されており、本調査では、将来的な極端な降水量の検討やそれらに対する影響に関する情報収集に用いた。	https://www.ipcc.ch/report/ar5/wg1/
4	気象庁2019: 気候変動監視レポート 2018.	気象庁により毎年発行されている、日本および世界の気候変動に関する状況をまとめたレポートである。観測値による長期的な変動の確認の他、2018年に見られた顕著な気候の傾向についてまとめられている。	https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/monitor/